



中期計画作成のためのアンケートへのお答え

2007年4月23日 大山崎町長

真鍋宗平

緑ますます盛ん、日々に鮮やかな季節を迎えております。

貴職におかれましては、日頃より本町の道路・交通問題について何かとご支援賜り、厚く御礼申し上げます。

さて、この度、「道路特定財源の見直しに関する具体策」に関わる「中期計画」作成にあたり、自治体関係者からも意見提出をお求めとのこと。せっかくの機会でもあり、ここにいくつか愚見を申し述べて、役割を果たたく存じます。

京都府乙訓郡大山崎町はご承知の通り、わずか6km、西に天王山、東は淀川にはさまれ、京都盆地から大阪平野にいたる隘路を占める、古くからの要所にあたります。西国街道を中心に水陸交通の要衝として栄えてきた本町に近代以降、国鉄（現JR）・国道・阪急、後には名神・新幹線など主要な国土幹線網が相次いで通過し、2003年には大山崎インタージャンクションが建設されました。

これらの通過交通網は本町にとって大きな活力源となり、発展につながる効果をもたらす一方、とりわけ自動車時代に至っては狭隘な地域の環境や生活道路に少なからず矛盾を生じました。

とりわけインタージャンクションは、淀川東岸地域との結びつきを強めるなど、広域に渡る移動の利便をもたらし、本町の立地条件に新たな可能性を開きましたが、こうしたプラスの側面に止まらない、地域の経済的社会的に無視し得ない影響が、時間経過とともに現在も進行しております。

例えば、インタージャンクションを含む道路関連の占有が町域の1割に及ぶ結果、固定資産税収減が町財政の縮減を招き、工場の撤退を埋める税源を見出せないなど、本町の財政危機の一端につながっています。

本町は今、引き続き、第2外環に関わる中学校移転を迫られ、国・府・道路事業者各位のご支援をいただきながら、これを優先課題としつつ、将来の道路計画の具体化へ向けての対応を急いでいるところです。

こうした諸問題と関わって、本職は以下のような諸点を、道路計画上の課題としてご提案くださることを要請するものです。

- 1) インタージャンクションについて、その地域経済への具体的な接続手法を、地域とともに研究し、具体化して行きたい。
- 2) 新たな「インタージャンクション像」の創出に向けて、ごいっしょに研究の場を作っていただきたい。（例えば、大山崎IJCに即して仮設的にご提案申し上げるなら、「緑のIJC構想」を立案し、住民参加型の植樹運動を発足するなど）

『インタージャンクション・高速道路の森構想（仮称）』

高速道路をグリーンゾーンで包む、住民参加型植樹運動の呼びかけ。大規模な都市緑化運動の

先行プロジェクトは建築家・安藤忠雄氏による大阪の河川に桜並木を構想した事例などがある。京都府下では北部の大野ダムの夫婦桜結婚記念植樹運動、旧大江町における由良川の洪水常習地帯の緑化運動など。

本町においては、第2外環・中学校再構築に関わる支援策の一環として国土交通省による「ピオトープ」の構想が予定されている。これを「インタージャンクション・高速道路の森構想」に連携することによって、いっそう多面的な環境形成の可能性を広げることが期待される。

3) 通過道路に連携する地域の生活道路について、連携的に関連・強化し、安全性と快適性を強化する道路整備の総合的システムを実現されたい。(例えば、生活道路のバリアフリー化支援、グリーンゾーンの創出、国道架設陸橋のあり方検討など。いずれも本町を想定しての事例)

4) 環境チェックのポイント増と、当該地域関連の評価数値を即時、自動的に自治体HPに連携公開すること。

5) 高速道路に関わる事故に対する、地域防災体制との連携・支援の整備・強化。

以上、雑駁な解答であり、はなはだ恐縮ではありますが、いくらかのご参考に資するなら、幸甚に存じます。

今後とも引き続き、ご指導、ご鞭撻くださるようお願い申し上げますとともに、本計画進捗の良首尾にご期待申し上げ、アンケートのお答えといたします。